

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！7月末時点で、第1期生2名、第2期生2名が海外留学中です。

事前オリエンテーション開催

第2期生を対象に、基金の趣旨等を説明するとともに、海外留学がより安全で充実したものとなるよう、7月6日（金）と7月10日（火）にオリエンテーションを開催しました。

午前のプログラムでは、基金による留学には多くの企業・団体、道民の皆様にご支援をいただいていることを説明したほか、地域コーディネーター（北海道大学、小樽商科大学の先生）から、第2期生の留学がより有意義なものとなるよう、各人の留学計画についてアドバイスをいただきました。

また、第2期生に激励やアドバイスを送るため、3名の第1期生が駆けつけてくれました。

午後のプログラムでは、応援パートナーの損害保険ジャパン日本興亜株式会社様から、海外留学におけるリスクマネジメントについて講義をいただいたほか、渡航後に北海道と海外の違いや関連性などについて認識を深められるよう、第2期生の留学テーマに関わりがある道庁関係課の職員から、北海道の現状や取組等について情報提供をしました。

事前オリエンテーション終了後に、第2期生から留学に向けての意気込みを頂きましたので、ご紹介いたします。



星野 愛花里さん

事前オリエンテーションでは、同じ第2期生の方々の留学計画と意気込み、第1期生の方々のアドバイス、そして道庁の担当して下さる方々からのお話を伺い、色々な人の思いで成り立っているこの留学に挑戦できることを改めて有り難く思いました。

留学を開始した時に活発に動く姿や、北海道に良い“土産”を持って帰る姿を想像しながら、今できることを一つ一つやっていきたいと思えます。

壮行会開催

7月19日（木）に、基金を応援してくださっている応援パートナーや関係団体などの皆様にお集まりいただき、第2期生へ激励を送っていただくとともに、第2期生の留学計画についてのプレゼンテーションと交流を行いました。

第1部では、開会にあたり知事から、基金を応援してくださっている皆様へのお礼を述べたほか、第2期生の若者たちに向けて激励を送りました。

また、応援パートナーズリーダーである株式会社セコマの丸谷社長からは、「北海道に限らず、幅広くその経験を日本全国、国際的な舞台で活かせるよう、しっかりと勉強し、大きく帰ってきてください。」と、激励をいただきました。

第2部では、第2期生がそれぞれのブースで、自らの留学目的や海外での活動内容などをプレゼンするとともに、来場者の方々と交流を行いました。

プレゼン終了後は、一般社団法人地域研究工房の小磯代表理事から、「つらいとき苦しいときがあると思います。特に言葉の問題や生活習慣。それを支えてくれるのはミッション、自分の想いだと思います。是非皆さん、北海道のために頑張るんだという想いを常に自分の心の中に持ちながら活動していただきたい。」と、激励をいただきました。



第1期生活動報告書を発行しました

基金を応援してくださっている企業・団体、道民の皆様へ、第1期生の留学成果を報告するために、活動報告書を作成しました。

留学中の活動内容とそれにより得られたことや、今後の展望等について掲載しているほか、帰国後の活動についても掲載しています。

活動報告書は、基金HPにも掲載していますので、ぜひご覧下さい。

URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>
(ページ下部の「ダウンロード」からご覧いただけます。)



第1期生活動報告（スポーツコース）

齊藤 雄大 さん アメリカ（テキサス州・アラバマ州・アリゾナ州） ～先進地に学び、道内に障がい者スポーツの拠点を～

障がい者スポーツ先進国アメリカで8月から1年間研修中。

6月4日から、Lakeshore Foundationでインターンシップをさせていただいています。障がい者のリハビリテーション施設として70年代にスタートしたこのLakeshore Foundationは、競技スポーツやレクリエーション、健康運動など様々なアクティビティがあります。

『障がい者スポーツの拠点づくり』が私の目標ですが、その中でも様々なカテゴリーがあり、障がいの種別はもちろん、チームの状況、選手の状態や需要に合わせる必要があると感じています。



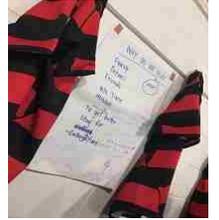
山 あずさ さん ニュージーランド（ハミルトン） ～本場でラグビーを学び、道内女子ラグビーの発展に貢献～

ラグビーの本場ニュージーランドの強豪クラブで、11月から1年間、自らプレーしながらコーチングを修得中。

先週末には、前回対戦をして負けてしまった相手と再度試合を行いました。私達はこの試合に向けて、1回のグランドセッションを中止にし、チームのリーダー陣が中心となりミーティングを行いました。話し合った内容を自分達のロッカールームに貼り、再度全員で意識統一をし、さらにチームが一つになりました。

とてもハードな試合でしたが、試合結果は、32対0で勝利できました！

勝つために練習を行うことはもちろん必要ですが、今回の試合を通して、スキルだけではなく、試合に向けたメンタルの持っていく方も大切であることを、改めて実感することができました。



社会貢献の活動を通じた寄附の取組を行っていただいています！

商品販売と連携した基金への寄附第2弾として、6月から、アサヒビール（株）の、北海道限定新商品「ブラックニッカ ハイボール香る夜」（4/3発売）による取組が始まっています。（6～8月3ヶ月間の販売1本につき1円を基金の「スポーツコース」に寄附していただきます。）

企業・団体の社会貢献の取組を通じ、売り上げなどの一部をご寄附いただくとともに、店頭広告などにより、当基金への応援を広くPRしていただけるこうした支援をさら広げていきたいと考えています。



応援パートナーの皆様

（平成30年7月現在・敬称略）

岩田地崎建設、HBA、有限会社 キョウゴク、大地コンサルタント株式会社、TAIYO GROUP、TAKESHITA、NICHIRYO、株式会社 丸升増田本店、MEDICAL NETWORK、MOROO、アイングループ、Asahi、Amino Up Chemical、NTT 東日本、小樽商科大学、北菓楼、CRIPTON、SATUDORA HOLDINGS、Century Royal Hotel センチュリー ロイヤルホテル、札幌市、札幌商工会議所、ジェイアイ傷害火災、JFE エンジニアリング、JTB、清水建設、しんじゅ、Secoma、札幌シャトル日本酒、Dai-ichi Life Group、大成建設、ロイトン札幌、株式会社丹波屋、Chitose Bus、東京海上日動、道路工業株式会社、Docon、Nipponham、MITSUBISHI ELECTRIC、NORTH CREATE、株式会社 HARP、HITACHI Inspire the Next、北洋銀行、北陸銀行、北海道銀行、HORI CONFECTIONERY、IKEUCHI GROUP、有末 真哉 遠藤 光二 武田 孝（拓殖工業(株)代表取締役会長） 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業4者

古本募金による寄附を受け付けています。 古本募金 ハッピープロジェクト

応援パートナー「NORTH CREATE」様のご協力により、ご家庭や会社で不要になった本等を寄附することで、その査定額全額が基金に寄附され、若者の支援に繋がる「古本募金ハピぼん」の取組を行っています。

個人での参加はもちろん、企業単位での参加も可能ですので、ハピぼんホームページをご覧ください。基金事務局までご一報ください。（これまでの寄附 495人の方から3,703冊）

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

TEL : 011-206-7380（直通） FAX : 011-232-6313

E-mail : mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



第1期生のチャレンジ風景をお届けします。

